

一般質問 (3)



命について考えよう大切なものをなくす前にできる備えを

石塚 真知子 (民主)

「自宅でも最期まで暮らしたい」をかなえるため支援体制を構築せよ

石田 しこう (みんな)

「最期は家で」をかなえるため

自宅でも最期まで暮らしたいという多くの市民の願いをかなえるため、介護する家族の負担を減らし、最期のみとりまで寄り添う

「答弁」 対応力強化を目的に

締結先の拡大を図る。

「質問」 災害時要援護者支援の進捗は。

「答弁」 平成 24 年 4 月から災害時要援護者登録管理システムが稼働し始めた。5 月末からはモデル地区を設け個別支援プランの作成に取り組んでいる。

「質問」 災害時のボランティアをコーディネートする人材の養成は。

「答弁」 平成 23 年度に市民ボランティアとして活動された方々と、災害ボランティアグループ立ち上げのための懇談会を今年の夏に開催した。経験を生かしていただけの体制整備に努める。

「意見」 申し込みから受診までの期間の短縮を要望する。

「質問」 災害時相互応援協定を同時被災の可能性がない自治体まで拡大すべきと考えるが見解は。

田無駅南口の街づくりを進めよ！ 公共施設の適正配置・有効利用

坂井 かずひこ (民主)

公共施設の適正配置・有効活用について、経営の観点からも現在あるストックをいかに活用していくかが重要と考えるが、市長の考えは。

「答弁」 公共施設の適正配置・有効活用について、第 3 次行財政改革大綱の取り組みとして一定程度の市有財産の売却を行う。多様化する行政需要に対しては、民間活力をこれまで以上に活用することで、より効率的に対応していく。

「質問」 田無駅南口は田無庁舎、田無公民館及び中央図書館など公共施設への玄関口として多くの市民が利用するが、田無駅南口駅前広場整備における今後の取り組みとスケジュールを伺う。

「答弁」 平成 24 年度については昨年度の調査結果に基づき費用対効果などの検証を進めながら、今後の駅前広場整備の事業化に向けた課題の整理を行っており、関

にかかわりなく安易に精神病院や特養を選択させるといふこれまでの考え方を改め、認知症になって

ながら暮らし続けられるよう環境づくりに取り組んでいきたい。

在宅医療を支える体制を地域に構築すべきではないか。

「答弁」 在宅で安心して最期まで暮らし続けるために、24 時間安心できる在宅療養サポート体制が極めて重要である。課題調整委員会を平成 23 年度に発足し、検討を進めているところである。

「意見」 孤立死をいかに防ぐかも課題だ。住民のネットワークづくりを粘り強く続けてほしい。

認知症になっても住みなれた地域で暮らすために

「質問」 厚労省は本人の意思

「答弁」 在宅介護を支えるため、当市はグループホームやデイサービスなどの整備に加えて小規模多機能型の施設整備を進めている。家族状況や介護力に合わせた、家族との交流を保ち

北原町 1 丁目の小道を整備せよ！ 高齢者クラブの充実を図れ！

森田 いさお (みんな)

放置自転車対策を急ぐ必要があるが、路面標示ステッカーを導入して、成果を上げた市があると聞く。市で導入する考えはあるか。

「答弁」 今後、先進市の調査・研究をしていきたい。

「質問」 北原町 1 丁目の小道は、つまづくことが多く、また、水もたまりやすく整備が必要である。安全対策を講じるべきではないか。

「答弁」 老朽化に伴い、ふたのがたつきや表面舗装が荒れる等の問題があり、指摘の箇所も、現況を確認し、今後検討していきたい。

「質問」 「やすらぎのこみち」等は、市民の生活道路にもなっており、良い施策だと思いが、景観が若干殺風景にも感じる。向台町の「緑と歴史の散歩道」のように壁面を活用した取り組みは、

係機関と協議を進めている。平成 25 年度以降に事業認可取得手続、基本設計、実施設計等を進め早期事業化を目指す。

「質問」 大幅な節電につながる長寿命の LED 照明を市が率先して使用しては。

「答弁」 議場や保谷駅のトイレなどで既に導入している。適切な時期に選定して使用を考えている。



小規模多機能型居宅介護事業所「みどりの樹」(東町 2 丁目)

いじめ自殺 次なる悲劇は必ず起きる

小峰 和美 (みんな)

「一番大事なものは、周囲の子たちが、見て見ぬふりをしないこと。勇気を持って、先生、大人たちに相談してください。」。大津いじめ自殺を受けて野田首相が発した「緊急メッセージ」である。これこそ本質を全く理解していない。大津事件では、周囲の子どもたちは勇気を持って教師に相談し、アンケートでも苛烈ないじめの実態を訴えた。それを無視し、隠ぺいし、すべてを消そうとしたのは、ほかならぬ「先生、大人たち」である。いじめは「子ども同士の問題」ではない。保身に走る教師、それをかばう教育委員会、

検討できないか。

「答弁」 道の幅が狭く、両脇に民家があることから、地域の意見を尊重しながら研究していきたい。

「質問」 高齢者クラブは、「生きがい」と「やりがい」を実現するために重要と思うが、加入者を増やす努力とともに、設立要件を緩和することはできないか。

「答弁」 厚労省は、平成 21 年に会員数の基準を引き下げた経過がある。今後も社会の変化に合わせて対策を立てていく。

市民が心豊かに暮らせる環境づくりを！

大林 光昭 (公明)

安全なまちづくり

「質問」 首都直下地震に備え、石神井川にかかる橋梁の総点検、また狭い道路の解消に向けた新たな取り組みをすべき。見解を問う。

「答弁」 橋梁は平成 24 年度に点検を実施し、平成 25 年度以降に修繕計画を策定する。狭い道路解消のため、今後さらに調査研究していく。

学校現場の支援体制

「質問」 いじめなど学校が抱えるさまざまな課題に対し、現場をサポートする体制を整備するべき。教育委員会の見解を問う。

「答弁」 指導主事や専門の相談員などが連携して、課題解決に当たっている。困難

問題から逃げる政治家、構造的な腐敗こそ摘み取らねばならない。このままでは次なる悲劇は必ず起きる。

「答弁」 どのような理由があるろうとも、嫌な思いをしていたり、苦しんでいたりする子どもを組織を挙げて救う。

その他質問等

◇ロンドンオリンピックが開催された。選手を最高レベルまで育てるには、小さいころから底辺で、ひたむきに指導者が献身的に育てているからだ。マルチサポートシステムと同様なサポートシステムをつくれ

◇DV やストーカー被害を未然に防ぐ手だてを講じる

な問題を解決できる体制をとってほしい。

「質問」 働ける年齢層が中心の生活保護世帯が増えていく。働ける、働きたい市民への就労支援体制を整えるべき。見解を問う。

「答弁」 関係部署及び関係機関との連携を含め、検討していきたい。

市民の健康づくり

「質問」 健康都市宣言から 1 年、取り組みと成果を問う。さらに、心の健康予防にも力を入れるべきと提案する。

「答弁」 健康都市推進委員会を設置した。市民がみずから健康づくりをできる取り組みを推進していく。

「質問」 健康都市宣言から 1 年、取り組みと成果を問う。さらに、心の健康予防にも力を入れるべきと提案する。

「答弁」 健康都市推進委員会を設置した。市民がみずから健康づくりをできる取り組みを推進していく。

「質問」 健康都市宣言から 1 年、取り組みと成果を問う。さらに、心の健康予防にも力を入れるべきと提案する。

「答弁」 健康都市推進委員会を設置した。市民がみずから健康づくりをできる取り組みを推進していく。



本会議場 LED 照明